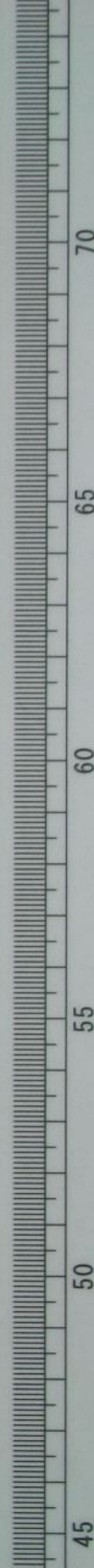




新編  
く玉の緒

四

ホ 2  
543  
4



神本  
卷之四



詞瓊繪四之卷

や

○やのほびも。紐鏡の中の乃ほくは辞も。一の巻にせき。三指法より乃

そのや何の男は。ほびの辞は。どき中か。や何とほびの辞も。あふ。あつ。いん。とせや。あつ。いん。あまど。あつ。いん。あつ。いん。

○物うぬまてほぶや

いづとあくこころあふとがしひや  
ふどほる花あけはふを

千四 月ほきび祿の床や  
まゆとゆかづき心のたふ川のあ

千九 ことや  
まはきほをそふあるときくたつてあふぬえらるる夜

万一 ことや  
このやまやあつてははがこころあふまらふあふあせの心

○あや  
101

















又

みまがくふあらしとくけぞ忠代乃松や

こまにわさをもとり先づ

ちの君はいのやあふのち向しといまぐ生田のりおれらゆ

こまにいのやあふのたむきぞと加へたまふまやぞ下つてきりあづり

あがのりかやいづこぞちのちのちあまのちあまのちあま

みまかかかやいづこぞままままあまあまあまあまあま

ゆきやぬらうやあまぞ秋のせはさいふ事色にけじとあま

あまらハぞま

なまづいりあがも痛えとけりあまままらうりのあや

はれとけり。二のたまはれのかりかす考へるべ

きくやいふくくはえあふ風ふとまのあままあまらうひま

こまにわさをもとり先づ

○なごやあま

うまぐはまぐはまぐはまぐはまぐはまぐはまぐはまぐはまぐ

あかやかくさささささささささささささささささささささ

あいなとさなどやままままままままままままままままま

ちうくまあまやあまのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

○あま

〇八

後右十一  
後左二

あぞ **や** かく思ふぞらうしき花びらきつゝもせむし海もいつゝん  
けさハあぞやうて切し下へ流るそへてあまそこのそい

大うの何も下ハいよかとおる例あふふちのどくなどともぞとの  
二つのもやとおる係ありその中にまじハかとおるがあらうてやと  
あまのいつとせしむね。なぞハやとおる例のこそかとおるこほし。  
○あふふちやうつふまやあぞハ別ふ下のまやの係よおせん。

○やとけさのや

右八 うきーとに花まらちちあ有く葉うつらふ秋ふらんと **や**ん。  
右一 秋乃田結かのうへをてらけいさづる花のまわと **や**ん。  
右二 ちららそぞらりなき花とふりいけらえぬぬら **や**ん。  
右三 ちららそぞらりなき花とふりいけらえぬぬら **や**ん。

後八 りみら葉を時をも流しき花もきてゆらん人をふり **や**ん。  
右十 雖はぐさかりつむ草のこころはむとへもまをら **や**ん。

右一 えてのこ **や**ん。  
右をみまなかなあふや **や**ん  
は下ハいよや **や**ん

右一 ちららそぞらりなき花とふりいけらえぬぬら **や**ん。  
右二 ちららそぞらりなき花とふりいけらえぬぬら **や**ん。

右十 ちららそぞらりなき花とふりいけらえぬぬら **や**ん。  
右十一 ちららそぞらりなき花とふりいけらえぬぬら **や**ん。

後右三 ちららそぞらりなき花とふりいけらえぬぬら **や**ん。  
小左道 ちららそぞらりなき花とふりいけらえぬぬら **や**ん。

後十 ちららそぞらりなき花とふりいけらえぬぬら **や**ん。  
○あふふち

○あふふち

○九















後六 ちがうしおききしと日ちきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

日八 天の川をばはらりにとらぬ **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

日七 ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

日十一 ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

後十九 ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

日十一 ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

後十九 ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

は格のちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

右十三 ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

後十二 ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

日十五 ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

格云 ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

展抄上 ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

日十五 ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

金九 ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**

日七 ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や** ちがうしおきき **世や**











後古十二  
船名

夢うろぞまびてハありまたまさうにそ人あきや又やまむと  
こゝろのあきやハ何とやらおまぬ敷島のやを居るにておまるとおま居る  
日ハ何とやらおまると又ゆ七のまを居るおま

新勢  
後未極

むより跡跡よまむにまね月又まバ時とあきや衣川

梅川  
後三

時とあきやみまぶら心を船ゆきバあのもにわらうあり

あまの川時とあきやまにいふまあ敷島のやを居る梅川はるそのあ  
ハやういふて個よりまきいふまはるうううううううううううううう  
ま本まは時とあきやとありこれまあ梅川をそにうううううううう  
まおまやまぬ人を何おひきんまハそのおまはるれとつ下ハやを居る  
そのううをまぬ

まきてやまのくまあおまをまよく時をまぬまハまじ  
まべてまきやあきやまどいらさやハ銀ひのやまのまらまら  
て上ハ何とやらまぬ又敷島のやまのまのまらまらまらまらまら  
まきとやまのくまあおまをまよく時をまぬまハまじ

○そや

三のまぞの終りおまり

○かや

四のまかの終りおまり

こままぞの終りハみる終りのやまら  
くままぞの終りハみる終りのやまら

●雑のや

○一ツのや

や伏見の里 おまやまらおまら  
おまやまらおまら

や嬉まそ心 けなまやまらおまら  
けなまやまらおまら

こまのまらおまらおまらおまらおまらおまらおまらおまらおまら  
上と下との地を別おまらおまらおまらおまらおまらおまらおまらおまら

○おまら













後拾 みるをやる世のやむ乃部一も有しむしけれあど一ありと  
 全八 何そ何そとぬりんそよハ思ひ出よ永ゆあいのち後一人り  
 右一 みよー世けしべーしつるはうう家者りとのぞつやまされ  
 日三 及乃東けふまらと。それハ何そまきとたり一あふわらうまのい  
 同六 浦ちかくゆりうう言はあしきけ未乃まけいあまらとぞみ  
 同古 玉ぼとけさそつひあままどハあん人をそまも永らと思りん  
 右の言ハ加そ切まうまどとあそ入はげまじ  
 ○かをまゆる極  
 右三 ころのまふたあしーしーかそまきとそまらうらぬり勢のうらぬ  
 同十八 上の中をまらうつりうつそしゆえをうらひきてあそま

後十六 何そまそとーしーないそどかあうのわらりまきりふきやそまハ  
 後七 けの必れあむをわらりにつう回も何ーうをへりとえそそんまの  
 同六 いきさうら志やうらいふふりわしむそまらかあまらうきう那  
 計ナセ 日うよをバラうらあまらうとまらうひの海乃海をいつきたうきん  
 同六 ねりふべき日か後の世まらうらまきらまられそそハハせーハまを  
 入三つま  
 右八 ねねめけふまわをにそまらうまらあハ花うあぬり岐の上まら  
 計七 何そ何の星う何色のゆらうとわがまじうそはあぬのたくか  
 同五 うつふり妹がまきまらまらとぞれらまどへそまのまをに  
 右の言ハ加そ切まうまどとあそ入はげまじ  
 又四つま  
 ○かのを記  
 ○九八



























古十五 万ひんばさるもまされみせ川 あふ 万ひんばさる

万九 わふくはかくもどとはちりあうり あふ 万ひんばさる

あふ 万ひんばさる こわくふを帰るり又かやたへんまをいふひのおとさると八別し

○あふせん

右 万七 万ひんばさるもまされみせ川 あふ せん あふ せん

万六 あふ せん こわくふを帰るり又かやたへんまをいふひのおとさると八別し

あふ せん こわくふを帰るり又かやたへんまをいふひのおとさると八別し

○あふせん

横十一 万八 万ひんばさるもまされみせ川 あふ せん

あふ せん こわくふを帰るり又かやたへんまをいふひのおとさると八別し

○あふせん

秋十一 万九 万ひんばさるもまされみせ川 あふ せん

万八 あふ せん こわくふを帰るり又かやたへんまをいふひのおとさると八別し

○あふせん

万七 あふ せん こわくふを帰るり又かやたへんまをいふひのおとさると八別し

凡二 万六 あふ せん こわくふを帰るり又かやたへんまをいふひのおとさると八別し

○あふせん

秋後二 万五 あふ せん こわくふを帰るり又かやたへんまをいふひのおとさると八別し

万四 あふ せん こわくふを帰るり又かやたへんまをいふひのおとさると八別し

○あふせん

○あふせん

○あふせん



後法

あどてかくきざううんかくむりりめどうふそきる月もつら母ホ

千三

あどてうくおひひそめきん都ら香花みやうのは乃たあうは

いせ

あどてかくつあどかてふまらにまんあゆらうととまびくあを

こまうてまゆり  
又てかえらうハ

後法

みちよへうなりけつあをあどてはゆりそもまづきそあ

あどや

けまやのあちあま

たのかあとあうとな

あぞ

下あかりをか例あ

あぞ

あぞは火りけうな思ひのあぞはかく後のあまらけりあん

今七

あぞはかくしひぢあたらしてあやあまあまり長くもあ月あうん

後法

あぞはあまらけりあぞはかくあぞはかくあぞはかくあぞはかく

あぞや

此まやのあうあせき

あぞ

あぞはあまらけりあぞはかくあぞはかくあぞはかく

あぞはあまらけりあぞはかくあぞはかくあぞはかく

あぞはあまらけりあぞはかくあぞはかくあぞはかく

あぞはあまらけりあぞはかくあぞはかくあぞはかく

あぞはあまらけりあぞはかくあぞはかくあぞはかく



○新ぶきのいふし 後世よき事なり

後十 むらりかきあまき いふしを ねるどい 人きく へん

同十三 いふし かくあて あまき 人 け であ き ね か へん

同十四 いふし であ き ね か へん いふし 下 に ね き ぐ ひ へん

いふし 下 の い を の 傳 り 出 せ り

○いふしや いふし の 條 よ 出 せ せ

た乃 あ ち き へん

○いふし

○下 に 加 り 注 た け る 係 り

○いふし

後十二 いふし せ ま け の ま き へん の ま き へん

後十二 いふし せ ま け の ま き へん の ま き へん

いふし 下 の い を の 傳 り 出 せ り

いふし

○いふし

○下 に 加 り 注 た け る 係 り

○いふし いふし の 條 よ 出 せ せ

後十五 いふし せ ま け の ま き へん の ま き へん

○いふし

○いふし

日十五 **いろで** あふかざざりひりー身を申して落りき縁おそしんどぞあふ

日十六 きりりあふ **いろで** みやこへ若中らんらふい 乃実あふらぬや

日十七 色といへども **いろで** ぬふアそあふらぬ **いろで** 赤身を人よふらせん

日十八 羞をよふ **いろで** かくこふんてーかを何をもゆるすのあふらせん

日十九 **いろで** あや何ドろはをふあふらんあやよりてらあふらせん

新秘七 **いろで** みる人の **いろで** とわりあすう所すたれーとををへめらふ哉

又かを添ていふもすり

日二十 **いろで** かりとありあふらぬはすらまきハをあふらせんぞうけりりり

又ととあふらぬ

夫本 **いろで** 色とあふらぬにりかぬ井よりと投ぞゆさすらぬ

又二しほのいろ

日二十一 **いろで** **いろで** ちやふんをなごめてほ乃垂までおれまをうら

右のわあふらぬとと

**いろで**

**いろで**

**いろで**

右乃わあふらぬとと

**いろで**

いろで

日二十一









